

筑阿弥於仲不語て謂やう。咲くその詞へ理るれど。日吉丸へ尋常の
 兎輩と全ト頼ふありむ。生れ一駒の奇瑞といひ。亦生長の動靜ハ
 氣隨るれども悪事と做さむ。父祖とる孫助國吉が。大願の首も祖
 听傳へり。倘その願望日吉が身ハ。應ずる筈のあらん。俺們ごと
 きが切なき。教訓しつとも何れせん。天神地祇の擁護ありく。奈何
 ある深山幽谿ハ。棄安バこそ失るく。猪狼の類中モ。却て渠が輔
 とある一。或ハ海波ハ漂ふとも。鯨鯢蛟龍鱗と振ひ。鱗と張て
 護る一。新煩意とやある。我方僅日吉が身と占る。阿姑が
 産ハ臨と一日の瑞相不思議あるの。靈夢ハ感トて懐せし
 筈。終ふこれと听てさ。心決して疑がたぬ。阿姑ハ厥と眼示現
 蒙る身とあり。早くも忘るゝあや。如くト這律叶賢他ある

漏一むいど。潜然ハ教訓しけむ。於仲も実中もと思直一。以後
 嘗て日吉が律。煩生る氣色ハありけり。然るハ筑阿弥奉老て。起
 居も自在あらざれば。婚と迎へく家と譲り。身と安樂ハ過さんと。
 海東郡砂子村ある。長尾某が子と將て。日吉丸が婿ある。け歲
 十七ハ長ぬるか。柯人として此ハ倂偶一。孫助吉房と号らせり。
 右馬允久吉と号し。從五位下武藏守に任じ。一路法印則是也。
 吉房ハ生國を高根村或ハ智多郡大高村といふ。諸本の誤歟。
 日吉丸ハ。順光房の俱とし。三河路過て遠江と。道と決身ハ隅も
 なく。標と配りて行向く。城主領主の分限あり。山川郊野の地理と考
 城邑村市の人員を。多少増減とよく察し。要涯進退の図を
 量て。且ハ貴賤の品と料簡。指呂と待て配札の大小とて格別せむ。
 順光房ハ殊の外。調實がて悦びつ。日と終て濱名ハ到る。け所ハ